

留学活用法 日本帰国後の就職へのステップ

取材協力=株式会社Big Bridge International (ジャパン・センター・オーストラリア) / 大橋賢一さん

ワーキング・ホリデーだけでなく交換や私費による方法など「留学」の形態や目的はさまざま、平均的に1年間とされる留学期間を将来に向け、いかに活用していくか考えることは個人にとって重要な問題だ。その中で考えなければならないことの1つとして、「日本帰国後の就職」が挙げられる。

日本の企業は現在、英語などの外国語で外国人と円滑にコミュニケーションが取れ、外国人の物の考え方や仕事の仕方を知っていると能力を持つグローバル人材を求めているとされている。留学はそのような人材になるための絶好の機会であり、うまく活用できれば良い形で将来へとつなげられることだろう。

そこで、グローバル人材を目指すために必要な、留学中にしておくべきことを大きく4つに分けて紹介する。留学に当たり、将来どういう人材になりたいかを考えて、留学をどう生かすかプランを立ててみてはどうだろうか。

基礎英語力の向上

現在の英語力が中・上級程度以上ある

人以外は、その後のステップのためにも語学学校への通学は必須だ。一般的に英語力は、ビギナー、エレメンタリー、インター・ミディエイト(中級)、アドバンスと大きくレベルが分けられ、レベルを1つ上げるには8週間程度の学習が必要とされている。つまり、現在ビギナー・レベルの英語力の人は、中級レベルに到達するために16週間程度(ワーキング・ホリデーの最大通学週数は17週まで、学生ビザは制限なし)の学習期間が必要となる。

この中級程度の英語力があれば、その後もより高い英語コースに進めたり、英語環境での就労経験も可能になる。従って、グローバル人材を目指すのであれば、中級程度レベルへの英語力到達が最初のステップだ。なお、中級の英語レベルは、英語を使って仕事をするにはまだ不十分で、最低限必要な基礎英語力が身に付いた段階だと言える。

仕事で使える英語力の向上

基礎英語力を身に付けたのみでは、英語をビジネス・シーンで使いこなせるとは

言い難い。よって、そのための勉強が必要となり、ビジネス英語コース、BULATS(ビジネス英語能力テスト)、ケンブリッジ英語力検定試験コースなどを学校で受講することが勉強方法として挙げられる。

上記コースの特徴として共通しているのは、話す、聞く、書く、読む、文法の英語における要素全てを強化でき、ビジネス・シーンでの実践的な英語力を身に付けられるということだ。

例えば、ケンブリッジ英語力検定試験の受講を修了し試験に合格すると、その資格が英語を使つてのメールなどの通信、交渉などの仕事をすぐに任せられる人物像であることを証明するものとして機能する。通常、上記のコースは4週間から12週間程度と比較的長く通学する必要がある、入学においても中級程度以上の英語力が必要なので、より綿密な計画をして上記コースを受講できるように臨む必要がある。

英語環境での就労経験

グローバル人材になるに当たり、英語環境での就労経験は必要不可欠。その就労経験を通じ、自分とは違う国籍の人の考え方、仕事の仕方を知ることができ、将来自分自身がそういった人と仕事をする際に、日本の常識では通用しないケースや考え方があることを知った上で交渉などができるからだ。

そのためにも当然、基礎的な英語力は持っていなければならず、その目安が

上記の中級程度の英語力となる。このレベルがあると、現地のホテル、企業、現地学校などでの就労経験が可能となる。

TOEIC高得点取得

日本での就職活動の際に持つべき英語の資格として代表的なものがTOEICだ。現在では、日本全体の70%以上の企業が採用に当たり同試験の点数を参考にしているとされ、一般的に外資系や英語を使った部署での仕事に就くには730点程度以上の点数が必要とされている。

同試験はオーストラリアでも受講可能で、日本よりも多い4週間ごとの頻度で公式テストが開催されている。また、オーストラリアでも受講するその他のメリットとしては、試験後1週間で結果が手に入ること。日本では試験申し込みから結果取得まで3カ月以上の時間が掛かるとされており、オーストラリアだと結果取得まで約2週間のため、就職活動をしたい時に結果が出ていないという事態には陥らない。

オーストラリアでは各都市に公式テスト・センターがあり、中には日本語での受付をしてくれる場所もあるため、日本帰国前に受験することを検討しておきたい。



利用者に直撃 ワーホリ・留学生サポート・センター 「ジャパセン」でオーストラリア留学

日本(東京・大阪)だけでなく、シドニーにもオフィスを持つBBIジャパン・センター・オーストラリア(以下、ジャパセン)。同センターでは、日本で相談を済ませシドニーで現地サポートを受ける留学生も多く、今回はジャパセンを通じて語学学校を決定し留学生生活を始めた杉原真由美さんに、オーストラリアで留学することのメリットから思い描く留学後の自身の展望まで話を伺った。

—オーストラリアに来たきっかけは何でしたか。

大学卒業後、日本でしばらく仕事をしていたのですが、当時は特に何か資格を持っていたわけでもなく、ずっと同じような生活をしていくかと悩んでいたことがありました。その時、以前から日本語教師に興味があったことを思い出し、日本語教師資格を取得できるコースをネット検索すると、ジャパセンのウェブサイトを通じBBIカレッジの日本語教師養成講座が目にとまりました。

講座の内容を調べてみて海外という環境での勉強に興味があったので、ジャパセンの東京オフィスでカウンセリングを受け、講座受講の準備を整え来豪しました。そして、シドニーで観光ビザを利用しながら、約3カ月間の日本語教師養成講座を受講し資格を取得しました。

—その留学でオーストラリアの生活面での印象はどのように感じましたか。

シドニーCBDエリアは東京に似た都会ですが、ホームステイをしていた郊外は落ち着いた雰囲気、その地域に住んでいた人

たちは初対面の私にも優しく、とても良い印象を受けました。アジア人に対しても抵抗がないように見受けられ、オーストラリアの社会は多文化に対して寛容で親日国なのだと感じました。

また、治安や気候の良さだけでなく、時差も日本とわずか1時間しかない、友達や家族とSNSなどですぐに連絡が取れるところにもとても安心感がありましたね。

—今回は2回目の留学になりますが、再来豪の目的はどのようなものですか。

日本語講師養成講座を受講する中で、将来の選択肢として日本ではなく海外で日本語教師の仕事をしたいと意識するようになりました。ただ、海外で就職を果たす上での英語力に自信がなかったので、まずは語学学校で勉強し英語力を向上させようと2回目の来豪を決めました。

—ビザや語学学校の準備はどのようにされましたか。

語学学校については、日本語教師養成講座を受講している間にジャパセンのオフィスで相談し、その時点で幾つか候補の

学校を決め、見学の予約まで済ませていました。再来豪してからは、候補の学校にアテンドしてくれる「ジャパセン・パック」というサービスを利用し、体験授業を受けるなどして入学する学校を選びました。

ビザの方は、できるだけ長くビザの有効期間を留学の時間に当てたかったので、まず観光ビザで入国し学校を決め、その後、学生ビザに切り替えるという方法を取りました。

そして、オーストラリアの学生ビザは、週20時間までの就労が可能というメリットがあるので、この点も学生ビザに切り替えようと考えた理由になりました。

—留学を今後の人生にどのようにつなげていきたいですか。

学生ビザである程度の長い期間滞在が可能のため、まずはじっくりと腰を据えて勉強し、英語力を海外での就職につなげられるレベルにまで到達させたいと考えています。そして、資格を利用しながらプライベート・スクールや日本語学校で日本語を教え、その経験も同時に積んでいくつもりです。

ジャパセンでは、世界中で日本語教師になるための就職サポートもあると聞いているので、英語力を高めながら海外での就職のチャンスも掴めるよう、今回の留学を有意義なものにしていきたいと思っています。



杉原真由美
(すぎはらまゆみ)
プロフィール◎大学卒業後に日本で社会人生活を送るが、将来を見据え日本語教師になることを決意、ジャパン・センター・オーストラリア併設のBBIカレッジ日本語教師養成講座で日本語教師資格を取得。その後、海外での就職を目標に語学留学のために再来豪。現在は語学学校で勉強中。



ジャパセンから一言

個人の留学を将来にどう生かすかは、目的によりさまざまだと思います。今回の真由美さんのように、日本語教師を軸に更なる飛躍を目指し語学留学を選択する人もいます。また、WH終了後などにビジネス学校などで学習を続ける方も多くいます。ジャパセンでは、語学留学のみならず、専門学校、資格取得、インターンシップ、TOEIC講座そして就職まで、1人1人の目的に沿ったプランを提案し、最適なサポートを提供します。

■BBI ジャパン・センター・オーストラリア
住所: Suite 3.03, 39 Liverpool St., Sydney
Tel: (02)9267-4002
Fax: (02)9264-8927
Web: www.japancentre-au.com
Email: info@japancentre-au.com
営業時間: 月～金9:30AM～5:30PM、土・日・祝休み

夢、キャリア・アップの実現 新たな可能性を目指して オーストラリアで「学ぶ」



気候や治安、日本からのアクセスの良さなどから留学先として根強い人気を誇る国、オーストラリア。さまざまな資格取得コースや学習環境が整う同国での学習は、語学力の向上を可能にするだけでなく、個人の新しい可能性を切り開く上での架け

橋となるだろう。そこで、本特集では、学生ビザの取得、人気の学校・コース、日本帰国後の就職に向けた留学活用法、英語試験IELTSの攻略法を専門家の意見を交え紹介する。

学生ビザ取得

学生ビザ取得から学生になるまで

取材協力=オーストラリアン・ビザネット、エミク/西尾彩子さん
(移民申請代理人登録番号0208479)

ビザの準備スケジュール

学生ビザを取得し、オーストラリアで学生として滞在することを考えた時、まず気になるのがいつから準備を始めるのが良いかということ。

もちろん「可能な限り早く」準備を開始すればその分余裕を持った準備ができるが、ワーキング・ホリデー・ビザから学生ビザへの切り替えを行う場合は、遅くともビザの有効期限2カ月前から学生ビザ申請に向けた準備を始めるのが良いだろう。

日本から学生ビザを申請する場合は、ビザ申請に併せて学校選びにも時間を要することが考えられるため、全体的な準備は大学であれば渡航から逆算して1年前、専門学校や語学学校であれば半年前から開始するのが理想的。そして、ビザ申請は渡航の3~4カ月前には始められるようにしておきたい。

必要書類・手続き

学生ビザに加え、学校に入学するために必要な書類は、入学を希望する学校の申込書を除き、語学学校であれば必要書類は基本的にパスポートのみとなる。また、

専門学校や大学の場合は、以下の書類が必要とされる。

- 日本での高校以上の卒業証明書
- オーストラリアで過去に勉強した場合、そのサーティフィケートと成績証明書
- 英語力の証明書 (IELTSなど)

上記のうち、英語力の証明がない場合、学校側が入学試験を提供しているのであればそれを受ける必要がある(筆記のみ、筆記+インタビューの場合がある)。英語力が学校の入学に不十分なレベルの場合(またビジネス・カレッジなどオーストラリアで勉強していない場合)、語学学校と専門学校や大学のパッケージでの申請、もしくは語学学校のみでの申請となる。

また必要書類について、選択する学校またはコースによっては英語での履歴書、ポートフォリオ、志望動機(エッセイ)の提出も求められることがある他、過去に勉強した内容の詳細情報の提供が求められることもある。

必要な初期費用

必要な初期費用のうち、学費について

は教育機関や選択するコースにより異なるため一概に平均的な費用は説明できないが、オーストラリアに学生ビザで滞在する全ての学生には「海外留学生保険(Overseas Student Health Cover/OSHC)」への加入が義務付けられており、その費用が必要だ。OSHCは、1年の期間であれば500ドル前後、3年間であれば1,800ドル前後が費用の相場となる。

学生ビザの申請費用に関しては、2017年9月現在で560ドルとなっているが、申請がオーストラリア国内で2回目以上の場合、上記費用に700ドルが加算されるので注意が必要だ。

学生ビザ申請の注意点

近年、移民局ではオーストラリア人労働者の雇用を守るという方針から就労可能な学生ビザも対象にビザ規定を年々厳格化しており、日本国籍者であってもビザが発給されない人が増えていると言われており、学生ビザ申請におけるフォームの記入にも正確な情報の記載が求められるようになっており、フォームへの記入を実際に始める前に自身に関する以下の情報をまとめておくことをお勧めする。

- 過去の職務経歴
- ビザ申請時点までの豪州での学歴

ワーキング・ホリデー・ビザから学生ビザへの切り替えを行うという人の場合は、特に以下2点について注意が必要だ。

- 学生ビザ取得後、学校が始まるまで仕事ができない
- 学生ビザを取得できていなくても、学校が始まると通わなければいけない(出席率のため)

また、学生ビザ取得に掛かるまでの審査期間については、公式発表ではおよそ1~3カ月となっており、審査の担当官が決まるまでの期間は、学校の種類別に以下の通り(2017年9月現在)。

学校の種類	申請の75%	申請の90%
語学学校	37日	49日
専門学校	50日	81日
大学	35日	49日

ただし、上記の通り審査期間の予想がしづらいため、時間に十分な余裕を持って学生ビザの申請をするようにしよう。

